

ロシア 東欧 経済速報

(社)ロシア東欧貿易会

2003年（平成15年）7月15日号 No.1266

目次

●ロシアのビール業界最新事情	坂口 泉 1
●エトセトラ	10
『調査月報』最新号のお知らせ／10	
サンクトペテルブルグの消費市場に関するレポート／10	
●ロシア東欧貿易会関連の行事予定	11
●CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	11

ロシアのビール業界最新事情

はじめに

経済危機前後からつい最近まで、ロシアのビールの生産量および消費量は驚異的な伸びを示してきた。ビールは、携帯電話などと並び、ロシアの消費ブームを象徴する商品のひとつだといえる。しかし、2003年に入って、ビールの消費量が低迷し数年ぶりに生産量も減少傾向に転じるという「異変」が生じている。本稿では、この「異変」の背景も含め、ロシアのビール業界の最新事情を紹介する。

1. 生産・消費・輸出入状況

生産量の推移 ソ連解体後ロシアのビール生産量は低迷していたが、1997年より生産が急増している（第1図）。その理由としては、①1996年よりビールの物品税が大幅に引下げられたこと、②1996年ごろよりロシアのビール部門への外国からの直接投資額が増加し（ロシアのビール部門は2000年までに約20億ドルの外国投資を受け入れたといわれている）、国産ビールの生産能力の拡大ならびに品質の向上が急ピッチで進んだこと、③1998年のルーブルの大幅切り下げの結果、市場での輸入ビールのプレゼンスが急激に低下したこと、④国産ビールのコストパフォーマンスの目覚ましい向上に加え積極的な広告戦略の効果もあり市場規模が急激に拡大したこと、等を挙げることができる。